



週報

2015~2016 年度 RI 会長 K.R. ラビンドラン
RI のテーマ 『世界へのプレゼントになろう』
第 2570 地区 ガバナー 高柳 育行

国際ロータリー
第 2570 地区

狭山中央ロータリークラブ

〔例会場〕 狭山東武サロン 〒350-1305 狭山市入間川 3-6-14 TEL 04-2954-2511
〔事務所〕 〒350-1305 狭山市入間川 1-24-48 TEL 04-2952-2277 FAX 04-2952-2366
<http://www1.s-cat.ne.jp/schuohrc/E> - mail:schuohrc@pl.s-cat.ne.jp
会長 江原伸夫 会長エレクト 佐藤圭司 副会長 浜野貴子 幹事 小島美恵子

〔第 3 グループ内の例会日〕 新狭山(月)、入間(木)、入間南(火)、飯能(水)、日高(火)、狭山中央(火)
所沢(火)、新所沢(火)、所沢西(火)、所沢東(木)、所沢中央(月)

第 1087 回(5 月 31 日)例会の記録

点 鐘 江原伸夫会長
合 唱 手に手つないで
第 2 副 SAA 小室君 栗原(憲)君
卓話講師

OFFICE LUCE 代表・現代医療問題研究所 所長
杉本 ゆかり様

※出席報告

会員数	出席者数	出席率	前回修正
35名	24名	67.65%	68.75%

会長の時間

江原会長



こんにちは。本日は、オフィ
スルーチェ代表、そして現代医
療問題研究所所長の杉本ゆか
り様にお越し頂いております。

お忙しい中、外来卓話をお引き受け下さいまして
ありがとうございます。後程のお話しを楽しみに
しております。何卒宜しくお願ひ申し上げます。

さて、先週のこの時間に、埼玉県シンボルとな
っている動植物があり、それには5種指定されて
いますとお話ししました。しかし、県の木「ケヤ
キ」・県の花「サクラソウ」の2種についてはお話
しすることができましたが、途中、時間がなくなっ
てしまい、他3種、県民の鳥「シラコバト」・県の
蝶「ミドリシジミ」・県の魚「ムサシトミヨ」につ
いてはお話しのできませんでしたので、本日は、こ
の3種についてお話しをしたいと思います。

埼玉県のシンボルとして、最初に指定を受けた
のが、埼玉県のマスコットで、コバトンのモデルに
もなっている、「シラコバト」です。昭和31年に
「越谷のシラコバト」として国の天然記念物に指
定されており、昭和40年11月3日に県民の鳥
に指定されました。



シラコバトは山鳩(キジバト)の仲間ですが、普
通のハトに比べてやや小型で、尾だけが長くほっ
そりしています。色は全体的に白っぽく、首の後ろ
に黒い横線が走っているのが特徴で、とてもスマ
ートな鳥です。また、この鳥は童謡『はとぼっぼ』
のモデルになっているとも言われております。

元々はインドの原産で、埼玉のシラコバトは、実
は江戸時代に人間が持ち込んだ鳥と言われていて、
日本では外来生物の位置づけになっています。そ
の当時は鷹狩りの獲物として扱われていたよう
ですが、外来種なのに国の天然記念物に指定されて
いるという例は、珍しいパターンですね。

国内では、主に埼玉県東部地域を中心に生息
しておりますが、昭和54年~昭和57年には推
定で1万羽になり、この時が最大の数でありまし
た。近年、生息域の縮小と個体数の減少が報告さ
れていて、平成24年度繁殖期には24羽、平成2
4年度越冬期には76羽、平成25年度越冬期に

は107羽となっており、県でも保護対策に乗り出しています。

県民に現状をお知らせし、関心を持ってもらい、目撃情報を集めるなど、今後も継続した調査を行う、としています。

県内4ヶ所の動物園『こども動物自然公園』・『大宮公園小動物園』・『智光山公園こども動物園』・『キャンベルタウン野鳥の森』においてシラコバトを飼育・増殖をする、としています。

ここからすぐ近くに『智光山公園こども動物園』もごございますので、お子様、お孫様を連れ添ってでもお出かけされてもよろしいかもしれませんね。

続きまして、**県の蝶「ミドリシジミ」**に移ります。

花や樹木・鳥が都道府県のシンボルになっている例は多く、哺乳類の例も見受けられますが、昆虫を県のシンボルにしたのは埼玉県が初めてだそうです。



ミドリシジミはシジミチョウ科に属し、ハンノキやヤマハンノキの葉を食べます。埼玉県にはハンノキが幅広く分布していますので、県内に幅広く生息しています。大きさは約4cm位で、夏の夕方、羽をきらきらと緑色に輝かせて飛びますが、そもそもなぜこの蝶が県の蝶に指定されたのか、と思いました。確かに美しく、昨今は見かけることも少なくなりましたが、それならば他にも近頃見かける機会の少なくなった蝶は何種類かありますので。例えば、国の蝶でもある「オオムラサキ」などもそうではないのかと。そこで、調べてみたら、もともとは荒川総合調査の自然担当者による座談会『荒川の生態系』において、荒川河川敷のハンノキ林の貴重性が指摘されたところから、ハンノキの葉を食べて繁殖する、ミドリシジミを県の蝶にして大切にすれば、結果的にハンノキ林を守れるとの提言を受けたことから、様々な議論を重ねたうえで、さいたま120周年記念事業としての「**県の蝶・県の魚の指定**」の正式決定後、平成3年の県民の日である11月14日に、このあとお話しいたします、**県の魚「ムサシトミヨ」**と共に指定されたそうです。

そしてその、**県の魚「ムサシトミヨ」**ですが、トゲウオ科の淡水魚で、寿命約1年の冷水魚です。

体長は3～6cmで、水温10～18度のきれいで冷たい湧水があり、細い川の流に生息してい



ます。特徴としては、体にうろこがなく、それぞれのヒレにトゲを持ち、特に背ヒレには、外敵から身を守る時などに8～11本のトゲがあります。トゲウオの仲間は、オスが小鳥のように巣を作り、子育てをする珍しい魚です。

かつては県内各地で見られ、元荒川ではザルで救うと何匹も取れたと言いますが、清流にしか棲まず、熊谷市の元荒川上流が日本（世界）で唯一の生息地となっています。

環境省や埼玉県のレッドリストで『絶滅危惧IA類（ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの）』に分類されています。

元荒川の生息地は県指定天然記念物として「元荒川ムサシトミヨ生息地」（地域指定）として、熊谷市ムサシトミヨ保護センターから下流へ約400メートルの区間を保護しています。この区間では、生息環境を守るため魚の採捕や水草の採取などの行為は制限されています。

平成17年の調査結果から、現在は約15,000匹が棲んでいると推定されているそうです。

先週と今週で埼玉県のシンボルについてお話をいたしました。調べていて、子供の頃には当たり前のように見たり触ったり採取したりしていたものが、大人になった今、無くなりつつある自然に気付いていなかったという、自分自身に寂しさを覚えました。これを機会に、埼玉県のシンボルを直に見に行ってみようと思っています。



ミドリシジミ



ムサシトミヨの巣

幹事報告

小島幹事

(定例理事会)次の件が承認・審議されました。

- (1) 6月プログラム承認
 - (2) モンゴル訪問費用について
 - (3) 入間川七夕まつり協賛金について
1. 地区より、クラブビルダー賞についての依頼
 2. 青少年を育てる狭山市民会議第2回理事会
次第関係資料について
 3. 受贈会報 所沢西 RC 所沢東 RC 所沢中央 RC

「外来卓話」・・・・・・・・・・

【冠婚葬祭のビジネスマナー】

OFFICE LUCE 代表・現代医療問題研究所 所長
杉本 ゆかり 様



こんにちは。杉本ゆかりと申します。先ほどは温かいお言葉を沢山頂きましてありがとうございます。また今日は大先輩方の前で、僭越ではございますが、冠婚葬祭のマナーについて少しお話させて頂きたいと思っております。場合によっては私の方が教えて頂く事もあるかと思うのですが、是非ご指導頂きたいと思います。

今日は皆様の前に、茶色い箱を用意しております。こちらの中身を全て出して頂きますと、たくさんの袋がございまして、ご覧になった事あるもの、なんだこれはというものとあると思います。そして資料とスクリーンをご覧頂きながら、話を進めさせて頂きたいと思います。なお、自己紹介については、皆様にお配りしておりますので、ご一読頂ければと思います。

お手元の袋と、資料 1 ページ目をご覧頂ければと思います。そして皆様の茶色い箱の中に入った袋には、実際には間違っただけのものも入っております。この後お話してまいります。冠婚葬祭だけでなく、ビジネスマナー全体が、地域や時代によって変化してまいります。そのため、ある地域ではこれは正しい、しかしある地域では廃れてしまっている等、皆様が御経験されている中で正しいと思っていたけれどというものもあるかと思っております。売っている教科書も、必ずしも時代というものではなく、正しい理論が作り手に伝わっておらず、間違っただけのものを使われているケースがございます。袋の中でどれが間違っているのかは、後程答え合わせをさせて頂きたいと思っております。

それでは物自体の意味について、お話を進めて参ります。まず袋を見て頂いても、赤か緑かという事を別に致しまして、お祝い事のもので、蝶結びの物、紐が上を向いている物がございます。



ご存知でしょうか、この紐のことを「水引」と言います。今も水引師と

言っていて、手作りで亀や鶴を作る仕事をしていらっしゃる方がいるこの「水引」ですが、蝶結びと若干名前の違いがありますが、結んであつて上に向いている物と、大きく 2 種類に分かれます。まずここで意味を把握する必要がございます。1つ目の蝶結び、これは上に結んであつて、真ん中で縛られて、下に向いています。これは「再びこのような喜びがあるように」ということで、行って戻ってきていますので、また同じことが繰り返されるようにという意味を持っています。それに対しまして、縛ってあつて上を向いている物、これは結んで上を向いたままです。つまり戻ってこないで、「再びこのようなことがないように」という意味を持っています。

例えばお葬式と結婚式、お葬式につきましては当然同じことが二度あつてはいけませんので、結んで切つてある物になります。問題は赤い袋、祝儀袋なのですが、蝶結びの物と結切りの物と 2 種類

ありますので、これは使い分けなければなりません。水引の話は少し置いておきまして、続きましてこの袋の端に、紙がついている物をご覧頂きたいと思ひます。皆さんよくこの袋の事を「熨斗袋」と言ひますが、なぜ「熨斗袋」というかと言ひますと、「のしあわび」がついた袋という意味です。ではどこが熨斗かと言ひますと、この三角に折った物自体を「のしあわび」と言ひ、袋のことではございませぬ。そしてその三角の物の中に、皆様のお手元の物には黄色い紙がついていますが、これはあわびをモチーフにしています。もともとは伊勢神宮等で、あわびは貴重なもので、祝い事とされておりました。これを伸して、伸したあわびを穢れのない白と赤の紙で包んで奉納した所から、これを喜びの象徴と致しました。本物の「のしあわび」は、伸したあわびが入っています。この「のしあわび」は一般的には「熨斗」と言われておりました、お祝い事のみを使うことができる物です。先ほどの「水引」の組み合わせと、この「のしあわび」の組み合わせを良く考えると、上手に使うことができます。また熨斗はこれ自体があわびと、魚介類になっておりましたので、例えば鯉節等には二重になってしまうということで、「のしあわび」はつけないというルールもあります。

不祝儀袋についてお話をしていきます。先ほどからお話にありますように、結んで切れて上を向いている、「再びないように」と言われている物が付けられておりましたので、当然蝶結びはありません。水引の色は、両方とも白い物もあつたり、緑と白、黒と白であつたりと色々ありますが、基本的には全て、正面を向かって右側が濃い色の水引、左側が薄い色の水引がくるようになっておりました。

皆様が良くお使いになるのは、お手元にあるような黒い物であると思ひますが、今日は黄色い物もご用意させて頂きました。この黄水引をご覧になったことがある方はいらっしゃいますか？これは百貨店等で売っておりますが、この黄水引は今でも関西地方では使われておりました。もしくは、四国もほぼ関西と同じレベルになっておりましたので、使われておりました。

この水引を含めた冠婚葬祭のマナーというのは、どこを基準に文化が分かれてきているかと言ひますと、味覚につきましては関ヶ原の戦いの所で分かれていると言われておりました、関ヶ原を中心として上が醤油の文化、下が昆布だしの文化になっていると言われておりました。これは実際には流れている水が硬水ですと、鯉節であれば醤油で味がでるのですが、昆布だしでは味が出ないと言われておりました、軟水が多い下半分に昆布が使われているとよく言われておりましたが、お葬式等につきましても、名古屋を越えた辺りから、関西に近い文化がありまして、特に四国、関西地方、中部を含めましてこの黄水引が使われておりました。どんな場面に使われるのかと言ひますと、多くが法事に使われておりました。仏の中でも少し色を薄くして、強いイメージを避けるという所から現在も使われておりました。この辺りでもデパート等の文房具屋には売っておりますので、もし機会がありましたらご覧下さい。

日本では仏教に限らず神式等、色々な宗教の中で法要が営まれますが、通常は通夜があつて、告別式以降 49 日を境目に、色々な説がありますが、納骨の跡に仏様になると言われておりました、袋も変わっていきます。例えば法要につきまして、最初に初七日を迎えます。最近では告別式の時に初七日も一緒にしてしまうケースがよくあると思ひますが、その後 7 日おきに法要を重ねていく、お札をもらって 7 日ごとに裏返していくというご経験がある方も多いかと思ひますし、35 日に一度遺族だけで供養をするケースもございませぬ。亡くなった方は 49 日間、お世話になりましたと、まだ魂がこの地上にあつて、49 日を境に天国にあがっていくので、この日を機会に納骨をすると言ひますが、地域によっては実際告別式当日に納骨するところもございませぬ。また都内では 1 年そのまま置いておいて納骨するところ、100 日おいて納骨するところもございませぬ。この納骨の日に関しましても、宗教は勿論なのですが、地域によっても異なっております。その後 1 年が過ぎますと 1 周忌、3 回忌と続きますが、3 回忌と言つても満 2 年目、つまり亡くなった翌年に 1 周忌がございませぬが、その次の年に 3 回忌がございませぬ。

そして7回忌が満6年目になりますが、ここまでが一般的に法要を営むと言われておりまして、7回忌以降縮小していくケースがございます。33回忌が弔い上げと言われておりまして、ここで一段落しようというケースもございます。これはつまり亡くなった後33年法要を続けるということで、周りの方が長くご存命か、もしくは若くして亡くなられたかのどちらかになると思います。最近では50回忌までというケースもございます。私も昨年親類の50回忌に出てまいりましたが、今長寿になってまいりましたので、50回忌以降、実際には100回忌までであると言われております。

この冠婚葬祭の袋の上に書かれている名前、これは「表書き」と言いますが、皆様がよくご存知なのは【御霊前】の袋、【御仏前】の袋、【御香典】の袋であると思います。御霊前の袋をよくお使いになるケースは、通夜や告別式と言われていたと同時に、これは宗教を関係なく使うことができると言われております。

例えば今は、キリスト教等色々な宗派の方がいらっしゃると思います。教会や神式、神社で行うといった場合は宗教がわかるのですが、宗教がわからないケースでは、御霊前をお使いになると、どれでも適用になると言われております。

仏式の場合は、多くはお通夜と告別式の時には御霊前を使います。そして法要になると御仏前を使うというケースが多くあります。そしてこの法要がどこからかと良く言われるのですが、49日から法要として扱われております。そのため、納骨の際等には御仏前を活用致します。49日までが御霊前、50日からが御仏前という地域も実際にはあるのですが、良く言われておりますのは、49日を境ということ。なお、この時に使われるものには【御香典】と言われるものもございます。

例えば皆様良く、香典を持っていくと言うと思うのですが、この香典とは、仏様に対して弔うという意味で、お香を捧げて下さい、そのお金にして下さいという意味で御香典を差し上げます。そのため御香典の場合は、結婚式のように高額を出さない、仏様に対してお香の代りという意味があるから、あまり金額があがらないと言われております。そして御香典、御香料、御仏前は全て仏式で使用が可

能となります。

続きまして神式の場合です。神式の場合はお線香ではなく、榊を差し上げます。そのため、御榊料と書かれているもの、もしくは御玉串料と書かれているものを使うことが基本となっております。この玉串とは、榊に和紙で清めが入っているもの、売っている榊ではなく、一旦清められているもの自体を言います。玉串奉奠ということをお聞きになったことがあると思うのですが、そのお金にして下さい、もしくは榊のお金にして下さい、神様の前に捧げて下さいという意味を持って、これが使われております。玉串料の場合は、白い水引であったりするケースもございます。

資料に書いてありますが、ホームページで神社本庁と調べて頂くと、神式に関する理論が全て載っております。日本の神社というものは、一部を除きまして全てこの神社本庁が管轄をしております。例えば靖国神社等は独立しているところがあるのですが、ほとんど神社本庁が一括をして管理をしております。そのため、このホームページをご覧頂くとルールについて書いてありますので、機会がありましたら是非ご覧下さい。

続きましてキリスト教についてです。キリスト教の場合は御花料、御弥撒料となります。弥撒とは、神様を称えるということで、弥撒に参列するということを知ったことがあるかと思いますが、この弥撒とは実際にはカトリック教会で神を称え、罪をあがなうことを言います。そのため、この御弥撒料とは、相手がカトリックでなければ使うことができません。キリスト教もカトリックだけではなく、色々な宗派がございますので、キリスト教徒の方には御花料を使うことが無難なケースとなります。御花料の袋は文房具屋に売っております。この場合水引はなく、キリスト教の場合は基本的には御花を捧げますので、御花があしらっております。ここで一つ、注意をして頂きたいものがございます。皆様のお手元に不祝儀袋があるのですが、よくご覧頂きたいと思います。その中には仏式にしか使えない袋が含まれているのですが、それは蓮の花が書かれているものです。蓮というのは仏様の乗るものですので、仏式のみを使うことができる袋となります。不祝儀袋に関しても、表書きに差が

あるという話を致しましたが、蓮についても注意なさと宜しいかと思ます。

祝儀袋についてのお話をしていきたいと思ます。先ほど、縛って上に向いている水引は、二度とこのことがないようにと言う意味で、蝶結びのように縛って上に回ってもう一度下がっているものは、もう一度このことがあるようにというお話を致しました。お祝いなのですが、基本的には二度とあってはいけないものがございしますが、それは結婚式です。

蝶結びになっているもので、短冊で「結婚お祝い」とかかかれている袋がよく売っております。最近は短冊を入れ替えることで色々使えると、全部入っているのですが、のしあわびがついているのはおめでたいという意味なので合っているのですが、本来結婚式の場合だけでなく、餞の時に蝶結びを使うということは、あまり良いことではありません。また簡単に、少しお祝いを差し上げるということで、印刷でお祝いとかかかれているものを使うケースもあるかと思うのですが、この使い方もやはり注意が必要で、水引が結切りなのか、蝶結びなのかを確認する必要がございします。

もう一つ絶対に気を付けなければいけないものがあるのですが、それは「御見舞い」です。私も父親が入院している時がございまして、その時に沢山の方から御見舞いを頂きましたが、ほとんどの方がのしあわびのついた、蝶結びのよく売っている袋に「御見舞い」と書いて持ってきてくれました。お金には変わりありませんし、気持ちは有り難いのですが、これでは入院している方におめでとう、もう一度入ってねという意味になってしまいます。コンビニ等で売っている水引のない「御見舞い」は、セブンイレブンの強化部長にも研修の際にお話したのですが、気がついたら水引がなくなっていたということで、これは略式で、本来正しいものではありません。しかしもしこれを使う場合は、きちんと名前を書きます。但し本来であれば、のしあわびがついていない、結切りの水引がついている「御見舞い」の袋を使用します。これはデパートに売っております。その辺では売っていないので、まとめて買って置くしかないので、最近では企業もいつ使うことがあっても良いように、見つ

けたら買って置くということになさっているそうです。

皆様のお手元にも豪華な水引のものがあると思ますが、今は意味を分かっておらず、ただ綺麗なだけで飾りが作られたりしています。本来の結切りは必ず戻ることのないような作り方がされておりますが、綺麗、可愛いものを注視すると、こういったものが世の中から忘れ去られていくということが現状です。

のしあわびがついていて、水引が蝶結びになっているものは、再びあっても良いというお祝いごとのみに使うことがございします。ご出産お祝いで結切りというのは、一人だけにしてということになりますので、間違いとなります。実際に販売されながらも間違っていて売られている物もございします。水引とのしあわびの関係さえ理解できていれば間違えることはございしませんので、ここだけは押さえて頂くと良いと思ます。

祝儀袋は濃い墨で書くとよく言われております。そして不祝儀に関して、特に通夜告別式の場合には、薄墨で書くと言われております。これも販売会社が売り上げを伸ばすために広まってきたということが現実としてはございしますが、最近では濃い墨、薄墨の筆ペンが売っております。良く言われておりますのが、お祝い事は前からわかっているので、おめでとうという気持ちで前から墨をすっているうちに濃くなった、お葬式の場合は急で、とにかく早く駆けつけなければという思いで、墨を濃くすっている時間がないので薄墨とも言われております。また泣いて薄まってしまうので、いつまで経っても薄いという言われもあります。

袋へのお金の入れ方です。今日お配りした資料は、宗派の本山で確認を

お札の入れ方



弔事の場合



慶事の場合

お札を裏にして印刷されている人物の顔が上にくるように返していれると言われております。またもう一つ皆様聞いたことがあることは、良くないことに関

しては新札をいれないように、逆にお祝い事の場合は新札を用意すると聞いたことがあります。お祝い事は前から準備ができるので、新札を準備できる、新しい環境に合わせてという意味がございます。それに対してお葬式等の場合は、新札を持っていくと準備をしていたのかと思われてしまうので、新札を使う場合でも折って入れましょうと検定でも言われております。また節目、折り目なのでお札を折るとも言われております。検定では縦に折るとも言われておりますが、ここの歴史的な根拠はありませんので、縦でも横でも宜しいかと思っておりますので、新札であってもお金を折るのが習慣としてあります。法事の引き物(お返し)の表書きに関しましては、「志」と書きます。よく葬儀社が注意して下さい、間違えないで下さいと仰っていましたが、不祝儀が「引き物」、結婚式が「引き出物」です。

洋服についてはあえていう事ではないと思っておりますが、光物は魔物と呼ぶと言いますので、よく言われるのは艶がないものです。アクセサリは皆様お付けにはならないと思っておりますが、時々若い方がエナメルの靴を履いたりしています。しかし本来はこれも、そしてバッグもタブーとされておまして、艶のない黒というものがルールとなります。また真珠もキリスト教等も含めた海外では二重、三重の真珠をしておりますが、日本の場合は一連、ピアス等も一つ玉と言われております。しかし最近、例えば海外のお葬式の場面で二重三重の真珠をしているのを見ますと、良いのだと思って日本でお使いになる方もいらっしゃいます。

最後に焼香の仕方についてお話を致します。これは実際には地域だけでなく、宗派によって変わっております。皆様はご存知だと思うのですが、若い方では自分の家の宗派がわからないという方が沢山いらっしゃいます。今日は細かい宗派に関しては資料ご覧頂くとして、大まかなイメージでお話をしていきたいと思っております。

通常、まず身内から焼香を致します。次に指名焼香の方が焼香を致します。会場によっても違いますが、指名焼香の場合は他の方よりも先に焼香を致しますので、後ろの方にお先に失礼しますという気持ちで一礼をし、前に出ていくことがあ

りますが、それ以降の一般の方も、後ろの方にご挨拶してくケースが多く見受けられます。イメージできますでしょうか？席を立った後に、一旦後ろの方にご挨拶をしてから、家族にご挨拶をする、これはいきなり家族にお尻を見せるということになります。これも葬儀社の方から聞いている話ですが、基本的に指名焼香は先に失礼しますということで御挨拶を致しますが、一般焼香に関しましては、本来は後ろにご挨拶をしなくても良いということです。自分の番になったら、まずは遺族に対して一礼、そして焼香台前に進み、位牌、遺影に向けて合掌一礼ということで、後ろに御挨拶する必要はないと言われております。しかし多くの方が後ろに向かって挨拶をされていると、自分だけしないのはどうかと思えるケースも多くあります。ここは皆様のご判断なのですが、私の存じ上げている葬儀社の方々は後ろには御挨拶をしない方がほとんどです。お香をつまむときには3本の指でつまむのですが、よくテレビのマナーで、捧げているのは間違っている等と言われるケースがあるのですが、これも宗派によって違うので、一概に間違いとは言えません。例えば、資料に額の位置まで香をおしいたきと書いてありますが、真言宗、浄土宗、日蓮宗はおしいたきます。浄土真宗、臨済宗はおしいたきません。そして曹洞宗は1回のみおしいたきて、2回目は横に移すといったように、宗派によって変わってまいります。

ではお葬式に行った先の宗派に合わせるのか、自分の宗派に合わせるのかという考えがあるかと思うのですが、葬儀社曰く、あくまでも自分の宗派でいい良いとのこと。数珠等も、持つことが自分の信条であれば、キリスト教であろうと持っていて良いとのこと、袋は相手に差し上げますので合わせますが、数珠等に関しましては自分の信条で良いのだと仰います。個人の冥福を祈りながら香炉の中に入れ薫じていくわけですが、これも宗派によって回数が変わってきます。しかし今お忙しいと、略式で1回でというケースも多くありますので、ここも周りをみて、判断頂ければ良いと思います。そして最後は必ず遺影に向かって、何よりも大切なことは、亡くなった方に対し成仏をするようにと願う事です。

日本人は一番節操がないと言われております。お正月は神式、お葬式は仏式、結婚式はキリスト教と何でも受け入れていくのが日本人です。私の友人でキリスト教徒の方は、神式にも仏式にも行きますが、絶対に鳥居はくぐらず、祈りも致しません。自分の信じるものがあると、その信条に従うというのが、本来信仰を重んじる方の取る行動だと言われております。また日本人は、仏様をお願い、神様をお願い、親にもお願い、誰にでもお願いします。私も昔はそうでしたが、本来は仏様には全て成仏するようお願いし、神様には感謝と、この2つしかありませんので、実際はお願いするところはないということになります。そして最後に遺族に一礼をして帰るということになります。

資料の最後に宗派の一例を載せてあります。たくさんありますので全部を載せることはできないのですが、参考までに、一番右側が本山となります。一つ間違ってしまったのですが、日蓮宗の本山の漢字、正しくは「身延山」です。誠に申し訳ございませんが修正をお願い致します。

長くなってしまいましたが、皆様ご経験の中で、私が僭越ながら冠婚葬祭についてお話させていただきました。なによりも弔う気持ち、お祝いする気持ちが重要だと思っておりますが、是非ご参考にして頂ければと思います。本日はご静聴頂きましてありがとうございます。

■プロフィール

- ・経営修士 (MBA)
- ・中央大学専門職大学院修士課程戦略経営研究科修了
- ・中央大学専門職大学院博士課程在籍 (2016.4～)
- 〈所属〉
- ・群馬大学理工学部大学院博士後期課程非常勤講師
- ・中央大学専門職大学院戦略アカデミー講師
- ・中央大学専門職大学院戦略アカデミーメディケアプロジェクト
- ・NPO 法人群馬がんアカデミー(群馬大学第一外科学)副理事長
- ・NPO 法人バイオフォーラム(群馬大学神経薬理学)理事

ニコニコボックス



江原君 本日はオフィスルーチェ代表・現代医療問題研究所所長の杉本ゆかり様にお越頂いております、お忙しい中ご都合をつけていただきましてありがとうございます。後ほどのお話し楽しみにしております。よろしくお願い致します。

小島君 オフィスルーチェ代表、杉本ゆかり様ようこそおいでいただきました。お話し楽しみにしておりました、宜しくお願い致します。

浜野君 杉本ゆかり様ようこそお越し下さいました。マナーはとても大事です。勉強させて頂きます。よろしくお願い致します。

古谷君 長い間、生活や仕事のために欠席致しました。今後は出席出来ると思います。

稲見君 オフィスルーチェ代表、杉本ゆかり様今日はマナーを勉強します。よろしく願います。

松浦君 杉本ゆかり様、今日はお忙しいところありがとうございます。この日が来るのを楽しみにしていました。

守屋君 当クラブへようこそ。良いお話しをお聞かせ頂きまして有難く感謝申し上げます。

佐藤君 本日は外来卓話、松浦会員紹介のオフィスルーチェ代表杉本ゆかり様、ようこそお出で下さいました。「冠婚葬祭のビジネスマナー」勉強させて頂きます。

清水君 例会を欠席しました。

若松君 あっちこっち行っていて、2週間休みました。これからしばらくは近くにいます。

会員誕生祝 古谷君

※次の例会

第2副SAA 守屋君 野口君

6月14日 (火)

12:30～13:30

会員卓話

田端都女子会員

イニシエーションスピーチ 菊田邦彦会員